

令和6年度「定期総会」開催

日時 令和6年5月19日(日) 11:00~14:30

会場 八王子エルシィ 3F

プログラム

第一部 定期総会 (11:00~11:50)

議事

- ・ 令和5年度事業報告
- ・ 令和5年度決算報告および会計監査報告
- ・ 令和6年度事業計画
- ・ 令和6年度予算

第二部 講演会 (12:00~12:50)

演題 「漆芸に関わって」

講師 小林 伸好 氏 (昭和47年卒)

プロフィール：東京藝術大学大学院 美術研究科工芸専攻 (漆芸)

東北芸術工科大学工芸コース 教授

日本文化財漆協会理事長

第三部 懇親会 (13:00~14:30)

令和6年5月19日(日)11時から、八王子エルシィにおいて定期総会が開催されました。コロナ禍の対応では、前年「第5類」に変更され日常が戻ることとなり、出席者は前年より多い34名となりました。今年は新入会員が6名と、数多く出席されました。



第1部の定期総会は、中村晋也副会長(昭和53年卒)の進行により始まり、浜中賢司会長(昭和44年卒)から、「母校は開校115年を迎えます。今日のおかね会を会員に支えてもらい受け継いでいくには、懇親や学校連携が大事。本日の集まりを縁に、今日は有意義に過ごしていただきたい」と挨拶がありました。

次に、名誉会長の宮嶋淳一校長から「卒業生、生徒は南多摩への愛着が強い。合唱祭での他学年、他クラ

スへの応援や、卒業生による現役生へのチューター協力者が多く出るなど、南多摩の強さは同窓会の支援の賜物と思われます」との挨拶をいただきました。

続いて、議長に齋藤博志常任委員(昭和50年卒)が選出され、議事が進行されました。

令和5年度の事業報告が川崎副会長(昭和51年卒)から、決算報告が高取早苗会計(昭和55年卒)により行われました。次に、監査報告が白井実千恵会計監査(昭和46年卒)から行われると、それぞれの報告に異議はなく承認されました。続いて、令和6年度の事業計画案、予算案が川崎副会長、日高典子会計(昭和55年卒)から説明され、これらも質問や異議がなく承認・可決されました。

その他で、浜中会長から「本年は役員改選がないので、役員を紹介します」と発言があり、会長、副会長ほか13名の役員の紹介があり、引続き同窓会の円滑な運営に努めていきたいと挨拶がありました。結びに、入沢修自副会長(平成5年卒)の閉会の挨拶をもって、第1部は無事終了しました。

第2部は、昭和47年卒業の小林伸好さんにより「漆芸に関わって」の演題で講演会が行われました。会報「みなみたま」のインタビュー記事の関係から、入沢副会長の進行で始まった講演会は、スライドを上映しながら話が進められました。

講師は、東京芸術大学大学院卒業のあと、青森で14年、弘前に移り、その後山形の東北芸術工科大学で教鞭をとり、うるし一筋に技術を磨いてきました。

うるしのかぶれは、人によって症状の出ない人、ひどく腫れ上がる人など、差があります。うるし掻き職人なる者がいて、6～10月に4日おきに木を傷つけてうるしを掻く作業をしています。1人の職人が400本のうるしの木を受け持ち、1年で1本の木から300gのうるしが取れます。今は職人が減ってきたため、ここ20年位で国内のうるしの生産量は1/10に減りました、などの説明がありました。

また、うるしは欧米ではなく、東アジアで取れるもので、中国、ベトナム、ミャンマーなどが主な生産地です。また、日本では縄文時代から使われています。

うるしを塗るハケの実物を持参され、日本製のものは性能が良く、中国製との違いを話されました。

あっという間に、うるし関連の講演会は時間の40分を迎え終了となりました。

第3部の懇親会は、引き続き入沢副会長の進行により始まりました。浜中会長の挨拶のあと、滝島徳久PTA会長から「平素、同窓会には生徒達がお世話になって感謝します。任期の残り1年を浜中会長、あかね会とタッグを組んで取り組んでいきたい」とエールが送られました。



続いて、常任委員で9年前に「アメリカ横断ドライブの旅」の講演をされた、福島雪男さん（昭和35年卒）により乾杯の発声があり、懇親会が始まりました。「若い会員の方が、同窓会活動にどんどん参加されることを期待します」とのお話がありました。

美味しい料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆さんの歓談が一区切りした頃、新任会員の紹介が始まり、6人から一言ずつ挨拶をいただきました。

南多摩フィルの部長をされていた方は、あかね会から110周年時に楽器の寄贈をいただきました。生徒主催の行事を乗り越えて楽しかった思い出や、建築を学びながら、地域などと協働していきたい、同窓会活動に貢献したいなどの意思表示がされました。

科学系の学科に進んだ方は、「行事、勉強に取り組みました。南多摩では自分から積極的に行動できました」と卒業生の答辞で南多摩を振り返りました。



服飾関係に進んだ方は、「いま友人ができて楽しいが、9期生同士は安心感がありました」と述べました。

看護大学に進んだ方は、「6年間太鼓部において全国大会に出たので、南多摩に貢献したい」と表明があり、6人が皆、母校に貢献したいと話がありました。

宴も賑やかになった頃、前年に常任委員になられた、シンガーソングライターSIOの小塩晶人さん（昭和62年卒）にギター演奏で歌っていただきました。

中島みゆきの「なぜめぐり逢うのかを 私たちは なにも知らない…」と「糸」を歌い始め、次に定番の「風に乗って」と2曲を飛び入りで歌っていただきました。SIOさんから、6月9日に日野煉瓦ホールで「僕たちの町コンサート」を開催すると紹介されました。



最後に、9期生の皆さんの音頭により、母校校歌「湧水は街を巡り・・・」を高らかに合唱しました。

結びに、川崎恵美子副会長



から閉会の言葉が述べられ、総会、講演会、懇親会の3部建ての定期総会は散会となりました。(溝口記)

